



● Human Centered Design Organization

H

Human
人間

C

Centered
中心

D

Design
設計

人を優先したモノづくりを推進します

特定非営利活動法人

人間中心設計推進機構

<http://www.hcdnet.org>

人間中心設計推進機構 (HCD-Net) について 理事長からのご挨拶

人間中心設計推進機構は、機器やシステムの開発に「人間中心設計 (HCD)」を効果的に導入することを目的とする特定非営利活動法人 (NPO 法人) です。

人間中心設計を開発現場に導入することで、ユーザーの実態を的確に把握し、開発関係者が共有できる要求事項としてまとめ、評価と連動した設計によって、ユーザーが満足できる品質水準の達成が可能になります。

これまで、ユーザインタフェースに関する新しい技術が開発され、それを活用して多彩なインタフェースがデザインされてきました。しかしその一方で、重要な品質特性であるユーザビリティを核とした「人間中心設計」の理解や導入は、十分に進んでいないのが実情です。そのためにユーザーの欲求を満たせず、本質的な満足度をユーザーに与えられない製品が出回る結果となっています。

こうした状況の中で、人間中心設計推進機構は、社会全体への啓発活動、エンジニアやデザイナーを対象とした講習会の実施、自由な議論を通じて人間中心設計への理解を深めるイベントの開催、ユーザビリティや感性的魅力に関連した研究の推進、公的ウェブサイトの評価や設計への参画、資格認定事業の実施、海外の関係者との国際的連携など、従来の学会のような学術的な組織の枠を超えた活動に挑んでまいります。

今後とも、皆さまとともに将来に向けた人間中心設計の潮流作りを進めてまいりたく、ここにご案内いたします。

本機構の主旨にご理解をいただき、ご参加くださることをお願いいたします。



特定非営利活動法人
人間中心設計推進機構
理事長 黒須正明

HCDの課題

実践できる専門家は まだわずか

HCDとはHuman Centered Designの略で「人間中心設計」を意味します。学界ではヒューマンインタフェース、人間工学、デザイン、認知科学などの各分野において、HCDに関わる専門的研究などの活動が進んでいます。しかし、日本の産業界でHCDを実践できる専門家はまだまだ少数です。そのためほとんどの商品やシステムは、HCDの専門家がたずさわることなく世の中に送り出され、わかりにくい、使いにくい、使えない商品やシステムが世の中にあふれることになっています。

モノの進化とともに浮上した HCDの問題

ここでいう「モノ」とは、ソフトウェアやサービスを含む、機器・システムの全体を指します。昔のモノの多くは、HCDが問題になることはありませんでした。しかしモノは常に変化しています。新しい技術による高度で複雑なモノは、従来の考え方だけでは、ユーザーにとっての使いやすさや欲求を十分に満たせなくなってしまう。



課題は産業界の啓発と 専門家の育成

今後の製品開発にHCDを反映させていくためには、産業界での経営者への啓発活動、開発管理者や設計者の知識・能力向上教育、そしてより多くのHCD専門家を育てるための教育活動が重要です。

NPO法人としてのHCD-Netの役割

公の立場で 産・官・学と連携し、 新たな社会形成を推進

学界、産業界の枠組みや行政の縦割り構造のため、HCDの視点が抜け落ちてしまったり、ユーザーの柔軟性に頼ってしまうことがあります。こうした部分を補完し、HCDを意識したモノづくりを実現するために、HCD-Netのような公益団体が、産業（産）、行政（官）、学界（学）を横断的につないでいく大きな役割を担っています。

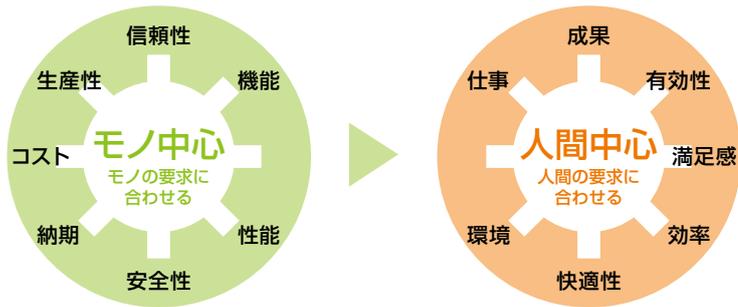


NPO法人であるHCD-Netは、20年近くHCDにたずさわってきた専門家の活動をベースに、産・官・学を横断的につなぐ役割を担っています。HCD-Netの活動は、ISO 13407 (JIS Z 8530)のプロセス規格に基づいています。

HCDとは

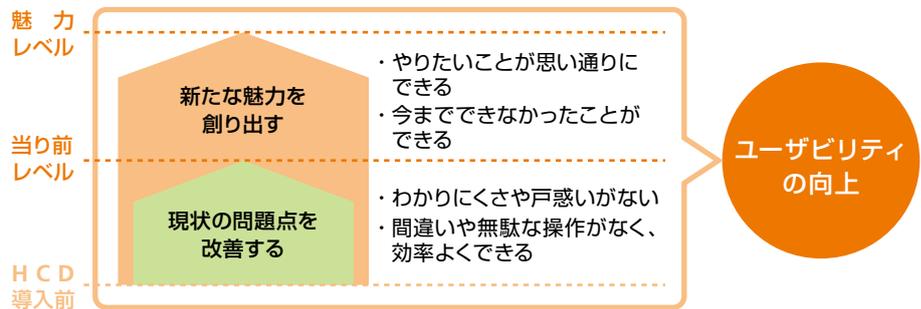
モノ中心から、
使う人間を中心にした
モノ作りへ

これからはモノだけでなく、それを使う人間の要求に応えるために技術を生かさなければなりません。HCD では「人間」を中心にすえて、人間の要求に合わせることを優先して設計します。



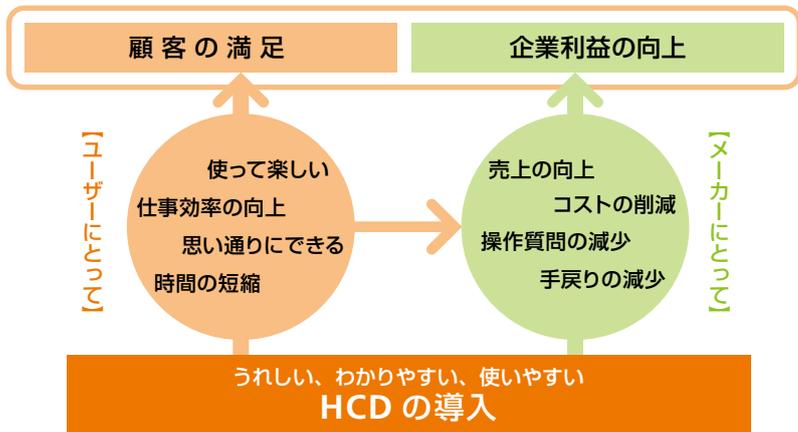
問題点の改善から、
新たな魅力の創造まで

HCD がめざすのは、ユーザビリティの向上です。このユーザビリティとは、単に現状の問題点を改善することではありません。より積極的に、人間の要求に応える新たな魅力を創り出すものです。



「手戻り」を減らし、
顧客満足と企業利益を
同時に達成

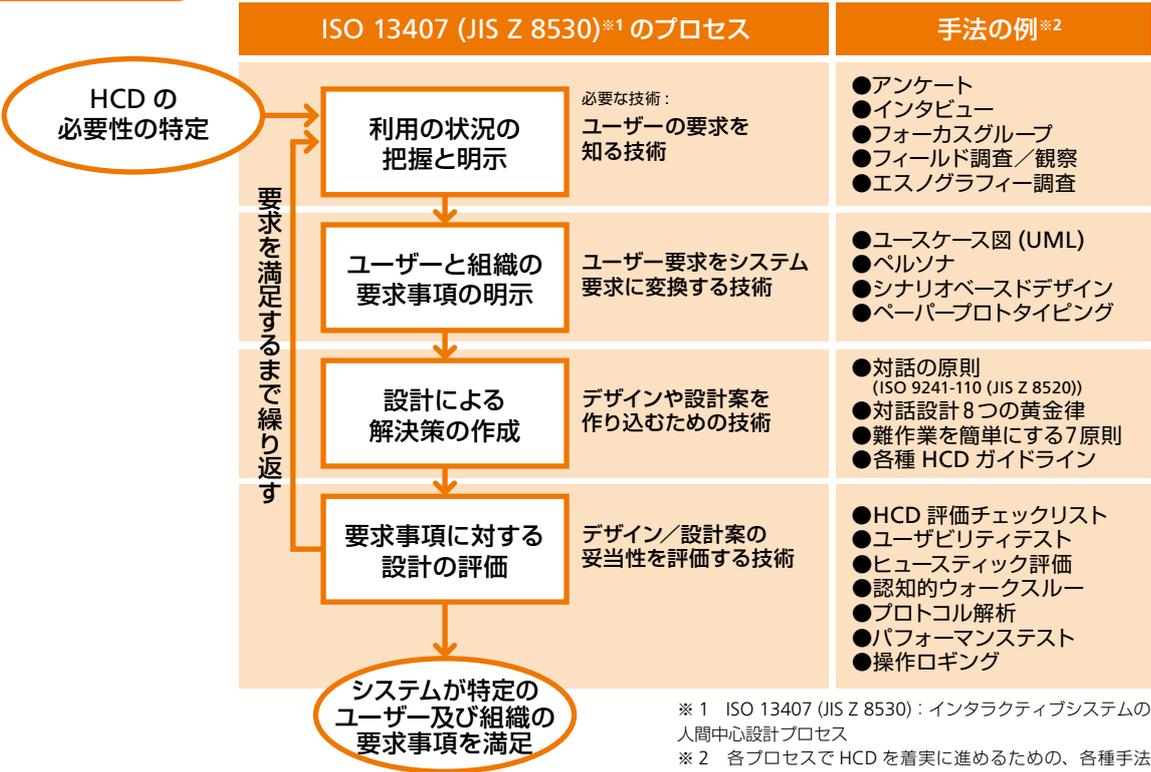
HCD の導入によって、ユーザーはモノをよりスムーズに、楽しく使うことができるようになります。メーカーにとっては、顧客からの操作に関する質問や「手戻り」が減り、コスト削減と顧客満足 (CS) を同時に達成することができます。



HCDのプロセスと手法

使う人の要求に応えるために、
設計と評価を繰り返す

HCDの進め方の基本は、製品の構想段階から対象ユーザーとその要求を明確にして、要求に合ったものを設計し、満足度合いを評価することです。ユーザーの要求が満たされるまで、これを繰り返します。



※1 ISO 13407 (JIS Z 8530)：インタラクティブシステムの人間中心設計プロセス
 ※2 各プロセスでHCDを着実に進めるための、各種手法が開発されています。これらの手法を活用することによって、ユーザビリティを向上させることができます。

現場観察で問題点を見つける

ユーザビリティは利用状況によって変化します。人により、時により、場所により、目的により答は変わります。ユーザビリティを向上させるには、対象とするユーザーのニーズと行動を知ることが出発点となります。
 現場では、ユーザーを中心に、その周りでどんなことが起きているかを観察し、分析します。実際の利用現場には多くのヒントが隠されています。

多様な人材チームで進める

HCD活動はユーザビリティの専門家だけでなく、製品仕様をまとめる設計者やデザイナー、市場導入戦略を牽引するマーケティングなど、多様な人材が関わりながら推進することが求められます。

メール作成中に、電話がかかってきた!

- ・この電話に出るべきか、出なくてよいか?
- ・誰からの電話か?
- ・相手によっては出たいが、相手によっては出たくない。
- ・出るにはどうすればいいか、出ない時はどうすればいいか?
- ・作成中のメールはどうなってしまうのだろう?
- ・どうすれば、あとでメールの作成を再開できるのかな?
- ・早くしないと電話が切れてしまう、早く対処しなければ。

HCD-Netのめざす社会

多くの人々が便利に快適に暮らせる社会

HCD-Net は、HCD に関する学際的な知識を集め、産学を超えた人間尊重の英知を束ね、HCD 導入に関する様々な知識や方法を適切に提供することで、多くの人々が便利に快適に暮らせる社会づくりに貢献します。あわせて経済の発展への寄与と、豊かでストレスのない実りある社会の実現をめざします。

HCD-Netの6つの活動領域

6事業部が連携して、HCD活動を推進

HCD やユーザビリティを探究する調査・研究事業の実施／HCD やユーザビリティをシステム開発に導入する際の効率性や利用品質をさらに高める研究／HCD やユーザビリティに関わる研究発表の機会の提供／機関誌（論文誌）の刊行など



HCDに関する研究活動

HCDに関する教育活動

HCD やユーザビリティの知識・経験・実践に関する講演会、セミナー、ワークショップの開催／HCD やユーザビリティの学習に適した教科書・参考書の刊行／HCD やユーザビリティの実践に必要な知識体系の構築・整理など

HCDの広報社会化活動

HCD やユーザビリティの普及・啓発事業／行政や産業界に向けたフォーラム、シンポジウムの開催／商品やサービスのユーザビリティに関するコンサルティング事業／ユーザビリティの向上を考える人材のネットワーク形成事業／ユーザビリティ評価、ユーザー調査分析のためのモニターを組織する活動／ユーザビリティに優れた商品を広く一般消費者に広報・販売する活動／年間アワード審査発表など



研究

国際

海外への情報発信／海外向け広報／海外ユーザビリティ機関との連携活動／海外ビジネス・研究活動の支援など

HCDに関する国際活動

教育

HCD-Net

規格化
認定

HCDに関する規格化／認定活動

ユーザビリティの判定に有効な指標の開発およびユーザビリティ専門人材の認定やユーザビリティに優れた商品等の認証活動など

広報
社会化

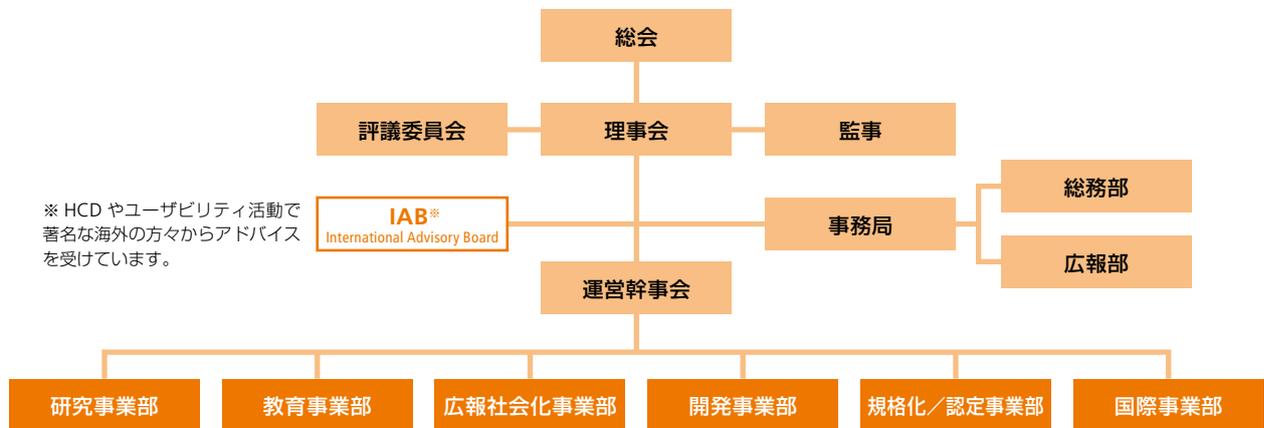
開発

HCDの開発活動

HCD に関するツールや手法の収集・開発／公共性の強い社会基盤システムのHCD やユーザビリティの検討、設計活動／HCD やユーザビリティに優れた商品・サービスの設計・開発／デザイン、マネジメント能力を持った人材の育成／HCD やユーザビリティに関する情報収集並びに情報提供／全産業にわたる商品・サービスのユーザビリティ評価・分析など

組織

運営組織



会員の全体像



会員の構成

HCDのノウハウを必要とする人

- システムエンジニア、プログラマー
- リクワイアメントエンジニア
- ユーザビリティエンジニア、デザイナー
- ユーザセンタードデザイナー
- ユーザインタフェースデザイナー
- インタラクションデザイナー
- 情報デザイナー
- テクニカルライター
- 商品企画、製品設計、製造、販売などの開発関係者
- ユーザーとの関わりを重視する必要がある方々
- HCD の重要性を理解し開発に導入している方々
- および、これらの専門性を育成したいと考えている方々

HCDを理解したい人

- エンジニア、システムエンジニア、プログラマー
- プランナー
- グラフィックデザイナー
- コンピュータグラフィックスデザイナー
- プロダクトデザイナー
- 流通事業者
- サービス事業者
- 行政システム担当者
- 行政サービス担当者
- ユーザーとの関わりを大切にしたいと考えている方々

入会のおすすめ

1. 当機構の活動を通じ、HCD やユーザビリティに関する最先端情報を収集し、実践に活用できます。
 - HCD スキルやユーザビリティスキルを、体系立てて習得できます。
 - HCD やユーザビリティのビジネス導入ケースを学ぶ場を得られます。
 - HCD やユーザビリティの有識者との情報交換の場（オフサイトミーティング、サロン）に参加できます。
 - 会員限定のセミナー、イベントに参加できます。
 - 定期機関誌ほか当機構の成果物を入手できます。
2. 当機構の諸活動には、会員価格にて参加できます。
 - 毎年開催されるフォーラム、シンポジウムをはじめ、各種セミナーやイベントの参加費には会員価格が設定されており、非会員価格と比べて割安となっています。

会員種別と特典

会費

- 一般正会員 12,000 円/年
- 一般学生会員 4,000 円/年
- 賛助会員 80,000 円/年

入会金 不要

会員特典

- 一般会員（正会員・学生会員）：
HCD-Net 主催の講習会・セミナー・懇親会等に会員価格で参加可能
HCD-Net 機関誌（論文誌）へ論文投稿可能
- 賛助会員：
一般正会員2名分の参加資格
賛助会員向けイベントへの参加資格

入会をご希望の方は、「入会予約申込書」にご記入の上、下記の「お問い合わせ先」までお送り下さい。またはWEB サイトからもお申し込みいただけます（http://www.hcdnet.org/apply/apply_form.php）。

論文の投稿は、常時受け付けています。

- 投稿規程（http://www.hcdnet.org/pdf/submission_rules.pdf）
- 投稿手続（http://www.hcdnet.org/pdf/submission_guideline.pdf）

お問い合わせ先

特定非営利活動法人（NPO 法人）人間中心設計推進機構 事務局

〒150-0045

東京都渋谷区神泉町 9-5 フジタ・インゼックスビル 9F

株式会社 ノーバス 内

phone: 03-6277-5415 fax: 03-5489-7472

e-mail: secretariat@hcdnet.org